



第8回新ひだか町民芸術祭 10/18~11/17

町公民館での作品展示を皮切りに『第8回新ひだか町民芸術祭』が静内・三石両地区で華やかに開かれました。

作品展示では、絵画や書道、写真、陶芸など子どもから大人まで、多数の力作が並び、来場者の目を楽しませました。また芸能発表では、迫力のあるダンスや音楽、華麗な舞踏などに、会場から大きな拍手が送られ、来場者は芸術・文化の秋を堪能していました。



混合バレーボール大会 11/17

町教育委員会による『第8回新ひだか町長杯争奪お父さん・お母さん混合バレーボール大会』が、静内体育館と山手体育館で開かれ、熱戦が繰り広げられました。



蓬萊荘へ寄附 10/28

三石小学校（細川清茂校長、児童157人）の児童会は、リサイクル活動で収集したリングブルなどと交換した車いす3台を特別養護老人ホーム蓬萊荘へ寄贈しました。

同校は、平成17年に町のリサイクル団体に登録し、全校児童や保護者、町内商店の協力を得て、リングブルなどを収集。6年かけて229\*。(約57万2500個)になったため、多機能介助タイプの車いすと交換し、寄贈しました。

児童会の中村耕太郎会長は「1年生の時から集めていたので、寄贈できて嬉しい」と話しました。



災害時におけるシャクシャイン記念館使用協定 10/30

静内警察署と道アイヌ協会新ひだか支部、町は、大津波などの災害で、静内署庁舎が使用できなくなった場合、シャクシャイン記念館（静内真歌）を同署の災害警備本部の代替施設として使用する協定を結びました。

町有地に建つシャクシャイン記念館は、同協会が所有・管理。武田署長は「シャクシャイン記念館がある高台からは、市街地を一望でき災害被害状況の確認場所として最適。今後は訓練を重ねたい」と話しました。



イオル体験事業 10/31

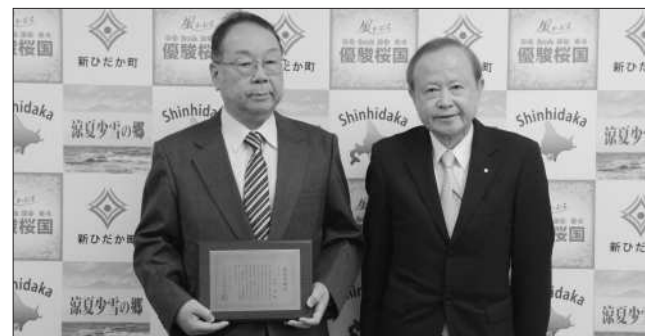
山手小の4年生29人は、道アイヌ協会新ひだか支部の試験栽培畑（静内真歌）で、民族伝統の収穫用具「ピパ」（穂ちぎり）を使って、イナキビ収穫を体験しました。



町善行表彰 10/17

町は、高静小学校に273本のLED蛍光管を寄贈した苦小牧市の錦戸電気（大滝信男社長）に善行表彰を贈りました。

これは、同社が創立65周年を記念し、今年8月に大滝社長の母校である高静小に、教室照明用のLED蛍光管を寄贈したもので、酒井町長は「長年地域のために尽くしていただきありがとうございます」と感謝を述べました。



町特別感謝状 10/24

町は、産婦人科専門医として地域医療を支え、10月末で閉院した河野産婦人科医院（静内山手町）の河野誠院長（70）に、特別感謝状を贈りました。

長崎県出身の河野院長は、東北大医学部を卒業後、昭和55年に旧三石町の三石国保病院に産婦人科医として着任。57年に、旧静内町に河野産婦人科医院を開業し、5千件以上の出産を扱いました。酒井町長は「地域住民のために33年間の長きにわたり、尽力いただきました」と感謝を述べました。



軽種馬産業講演会 10/25

管内の町議でつくる日高地区軽種馬産業活性化推進議員連盟連絡会（中島滋会長）は、「今後の軽種馬産業について」をテーマにした講演会を北海道市場で開きました。

# ニュースフラッシュ

まちのできごと、話題をお届けします。



防災訓練 10/17

町防災会議による防災訓練が東静内、三石東蓬萊、三石西蓬萊の3地区を対象に行われ、約180人が参加しました。

東日本大震災を踏まえ、平成23年から津波を想定した避難訓練を実施。参加した地域住民は、自宅から避難場所までの避難経路の確認や避難時間の把握をしました。訓練後、酒井町長は「震災の津波被害の教訓を忘れず、防災意識を高く持ってほしい」と呼びかけました。



海物語 in みついし 10/22

ひだか漁協三石地区青年部による出前授業『海物語 in みついし』が三石小で開かれ、5年生30人が前浜で水揚げされる魚についてやサケフレークの調理法を学びました。